

## 第一コンサルタンツ環境工学実習感想

高知大学 農学部 流域環境工学 堂園 汀

環境工学実習全体を通して、現場やデスクワークそれぞれに大学では体験する機会がない業務であるとともに大学の学習が基礎となっており、環境工学実習開始当初の目的内容を学ぶことができたと思います。

環境工学実習1日目～3日目は、橋梁に関する内容を学習し、橋梁の設計や図面の確認からそれらの目的を理解するという業務を行いました。この内容は大学で学習した橋梁内容に加え、高校時代に建築を学んでいた経験を活かすことが出来、大学だけでなく高校の内容まで実際の業務に携え、勉強になりました。

環境工学実習4日目～5日目は、空間という部署でGISを利用し、南海トラフ地震による津波被害箇所周辺の重機の確認やある地域の避難通路の最短距離作成を行いました。大学の授業でGISを学習していたが、実際にどの様に利用し役に立つのか見当もついていない状態に留まっていたため、大学の授業の活用と共に必要性を理解することが出来ました。

環境工学実習6日目～8日目は河川砂防課において、物部川の小田島に関する現場写真確認や舟入川周辺道路の道路幅確認を行いました。6日目に向かった現場では、現地へ赴くことで学習できる内容や下流から上流部まで物部川を見ることで物部川の特性等への理解が深まりました。現地では、除草禁止に関する内容や大雨の影響による物部川の中州の形の変化、実際に発生していた連続的な跳水等学習内容が多くそして深かった。8日目の舟入川周辺道路の道路幅確認は、昔頻りに利用していた道であり、高知大学で土木関係も学習していることにも関わらず、河川内の構造等へ全く目を向けていなかったことに恥ずかしさを覚えた。また同時に今回の現場は、河川を安全性の観点から見る事ができました。特に高知は、地震が発生し津波が押し寄せるといふこともあり、日頃の日常でも安全性を見る目を持ち生活していきたいと感じました。

環境工学実習9日目～10日目は、現在工事中である空港周辺高速道路周辺のボーリング柱状図作成、調査記録票の数値・記載事項チェックを行いました。ボーリングによる地盤採取後を見たのは初めてであり、実際に資料に触れ自らの目で見ることで大学の地盤工学を学習した上で、自らの無知な程度を知ることが出来ました。具体的には、粒径により分類されている土質の数値のみを覚えており、実際に現物になると土質判定に時間を要していました。このボーリング柱状図作成を御社の社員の方と共に行うことで、分からない土質の特徴など、現状に至るまでの過程等多くの事を聞いて学ぶことが出来ました。調査記録票の数値・記載事項チェックでは、単に間違いを見つけるだけでなく、調査結果の所見と写真を見ることで、様々な損傷等の実例を目にすることが出来、勉強になりました。

先週からの2週間、お忙しいにも関わらず各部署の方々に時間を割いていただき、ご指導して頂きありがとうございました。まだまだ、実務には力不足ではありましたが、今回の経験は、今後の学生生活、そして就職後に活かしていきたい次第です。2週間お世話になりました。